

Sep.20. 2011

JSEKM (The Japan Society for Electronic Keyboard Music)

News Letter

No.12

日本電子キーボード音楽学会ニュースレター ～日本電子キーボード音楽学会「第7回全国大会」案内号～

2011年11月12日(土) 東京学芸大学

目次

1. 第7回大会のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 ・ 基調講演 ・ パネルディスカッション ・ 研究発表 ・ 研究コンサート
2. 大会スケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3. 会場とアクセス (学芸大学正門から芸術館まで)・・・・・・・・ 4
4. 事務局からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
5. 学会「入会」申し込みフォームについて・・・・・・・・・・・・ 6

日本電子キーボード音楽学会 事務局

〒215-8558 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-1
昭和音楽大学内 阿方(アガタ) or 生頼(オウライ) 気付
Tel : 044-953-1121 Fax : 044-953-1311
H.P. : <http://jsekm.jp/> E-mail : jsekm@view.ocn.ne.jp

1. 第7回大会のポイント

本学会では、学会設立当初より国際的視野から電子キーボードを考えるという方向のもとで、ドイツ、オーストリー、中国、台湾、韓国、インドネシアなどから参加者があり、広く海外情報を紹介してきました。今年度もオーストリー、中国、台湾からの出席者があり、日本の電子キーボード音楽・教育を見直すよい機会になるかと思えます。以下、今年度の内容のポイントです。

1. 基調講演

昨年度は、ウィーン国立音楽大学ピアノ科のシュテファン・メーラー教授の電子ピアノでピアノコンチェルトを演奏した実体験に基づいた講演でした。今年度は台湾の東海大学で電子オルガンアンサンブル（東海大学電子鍵盤交響楽団）を主宰する郭宗愷教授に、同大学交響楽団に伍して学内や学外で活躍するに至った経緯と今後について語っていただきます。広く電子楽器の社会的認知をどのように行うべきかという観点からの話が期待されます。

2. パネルディスカッション

今年は、中国の電子キーボード（電子オルガン、ML、一段電子キーボード）の各分野で活躍されている方々に話題提供者となっただき、昨年までの電子オルガン、ML、などに分かれていたパネルディスカッションを一本化して電子キーボード全体の中で私たちの立場を考えようということにしました。経済の著しい発展にも匹敵する中国の電子キーボード界の中から、私たちの行き方に寄与するものを見つけ、情報交換により、更なるこの分野での深化が可能になるのではないのでしょうか。

3. 研究発表

大きく、演奏分野（電子オルガンによる韓国、国内のオペラ）、教育分野としてのML（含、中国のテキスト紹介）、考察（電子楽器の寿命、介護予防と電子キーボード）の3分野での発表が予定されています。他分野に比べ先行文献や事例に乏しい電子キーボードにとって、実践から導かれたこれらの発表は貴重なものといえると思います。

4. 研究コンサート

毎年、会場校の特長を活かしたコンサートが行われていますが、今年はザルツブルグ音楽院ピアノ科のプラーゲ教授をゲストに迎え、リストの“悲愴協奏曲”を2台ピアノ版と電子キーボードアンサンブル版で演奏していただき、演奏後にピアノやオーケストラと異なる電子キーボードアンサンブルについての印象を語っていただきます。電子キーボードは東京学芸大学音楽専攻の有志が担当しますが、これは教員養成大学の電子楽器への取り組み方のひとつとして注目されるべきものです。

2. 大会スケジュール

日本電子キーボード学会 第7回全国大会

と き：2011年11月12日（土）10：30～19：30

ところ：東京学芸大学（東京都小金井市貫井北町4-1-1）

アクセス：JR中央線武蔵小金井駅北口下車、京王電鉄バス小平団地行き、学芸大正門下車

10：00	《受付》 芸術館ロビー 午前中の会場は芸術館		
10：30	ごあいさつ 学芸大学関係者（会場校） 柳田 孝義（学会代表）		
10：45	基調講演 台湾・東海大学と電子オルガン～どのようにして電子オルガンの社会認知をしてきたか～ 郭宗愷（ピアニスト・指揮者/台湾・東海大学）		
11：30	総会		
12：00	昼食		
13：00	パネルディスカッション 3F 会議室 or 芸術館		
	“中国における電子キーボード教育の現状を知る” 話題提供者：薛慶（広州外語芸術教師養成大学）、王永剛（ハルビン大学芸術デザイン学院）、謝及（星海音楽学院）、楊俊坤（広州市現代文化芸術訓練学校）、李楽友（大連大学音楽学部）		
15：00	休憩		
15：30	研究発表2		
	Room-1 (3F 講義室-1)	Room-2 (3F ML 教室)	Room-3 (3F 講義室-)
	研究発表① 韓国室内オペラフェスティバルと電子オルガンの活用 西岡奈津子（EO演奏家）	研究発表② 教員養成大学におけるMLの現状と課題 小林恭子（目白大学）	研究発表③ 楽器寿命の観点から電子楽器を考える 金銅英二（松本歯科大学）
16：00	小休憩		
16：10	研究発表④ 浜松学芸高等学校におけるハイブリッドオーケストラの試み 宮本賢二郎（浜松学芸高校）	研究発表⑤ 広州外語芸術教員養成大学のML教育とテキスト 薛慶（広州外語芸術教員養成大学）	研究発表⑥ 「介護予防運動における電子キーボードの活用についての考察」 松本裕樹（和歌山大学）
16：50	小休憩		
17：00	《研究コンサート》 リスト“悲愴協奏曲”の比較演奏 ・2台のピアノによる演奏 第1ピアノ Prof. プラーゲ（ザルツブルグ音楽院教授） 第2ピアノ中地雅之（東京学芸大学准教授） ・電子キーボードアンサンブルとの協演による演奏 ピアノ Prof. プラーゲ（ザルツブルグ音楽院教授） 電子キーボード 東京学芸大学学生有志 ・トーク “キーボードアンサンブルについて” Prof. プラーゲ 中地雅之（東京学芸大学准教授）		
18：00	懇親会（学食）		

*発表者とタイトルは都合により変更される場合もあります。

3. 会場へのアクセス（学芸大学正門）から芸術館まで



バス停（学芸大学正門前）から正門への並木道



並木道を進むと正門がある。



正門に入って左手に現在地を示す看板がある。
芸術館は現在地を左折した 36 番



芸術館正面



午前中の行事とコンサートが行われる芸術館内部正面（左）と側面（右）

3F 芸術・スポーツ科学系研究棟 2号館 案内板



研究発表などが行われる「芸術・スポーツ科学系研究棟 2号館」

4. 事務局からのお願い

- ・ 学会は会員の会費で運営されています。本年度（4月より）の会費 [5,000 円] を未納の方はご納入よろしくお願ひ申し上げます。納入されたか未納かお分かりにならない方はご一報ください。

○りそな銀行新百合ヶ丘支店 普通預金口座番号1318267 口座名日本電子キーボード学会

○郵便局加入者払込(出)局新百合ヶ丘ビブレ内 口座番号00250-0 129916 口座名日本電子キーボード学会

*口座名が古いままで「音楽学会」となっていませんが、申請許可が下りるまでは、旧名をお使ひください。

- ・ お知り合いの方に大会のご案内をお願いいたします。連絡先をいただければ資料をお送りいたします。

5. 「入会」申し込みフォーム

新しい仲間を増やしていくために正会員の方は、学会入会の推薦者になってください。入会フォームは、ホームページからオンライン申し込みも可能です。<http://jsekm.jp/>

WELCOME TO JSEKM

日本電子キーボード音楽学会

JSEKM TOP
学会紹介
会員・申し込み
全国大会
沿革
Voice of JSEKM
関連リンク
会員リンク
会員情報
お知らせ
M.L.研究部会
お問い合わせ

会員・申し込み

会員資格および会費

正会員 電子オルガンキーボードの研究に携わる者(大学院生を含む)
学生会員 電子オルガンキーボードの研究を志す者(大学院生以外の学生を含む)
団体会員 学術的研究に従事し、本会の趣旨に賛同する機関団体等
賛助会員 本会の趣旨に賛同し、その事業を援助する個人又は法人

正会員 ¥5,000
学生会員 ¥2,500
団体会員 ¥10,000
賛助会員 ¥10,000(1口以上)

入会希望者は申込書(PDF)をダウンロード・プリントアウトし、必要事項を記入の上、日本電子キーボード音楽学会事務局宛に郵送。
または、申込フォームのページで直接入力・送信。

会費の納入は下記銀行口座または郵便局口座宛お振込みください。
りそな銀行 新百合ヶ丘支店 普通預金 口座No.1318267 「日本電子キーボード学会」
郵便局 加入者払込(出)局新百合ヶ丘ビブレ内 口座00250-0 129916 「日本電子キーボード音楽学会」

JSEKM申込書(83KB) 推薦者をお持ちの方
JSEKM申込書(89KB) 推薦者をお持ちでない方
[オンライン申込フォームへ](#)

000831